

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

102

秋の企画展

生誕400年記念

保科正之の時代

福島県立博物館

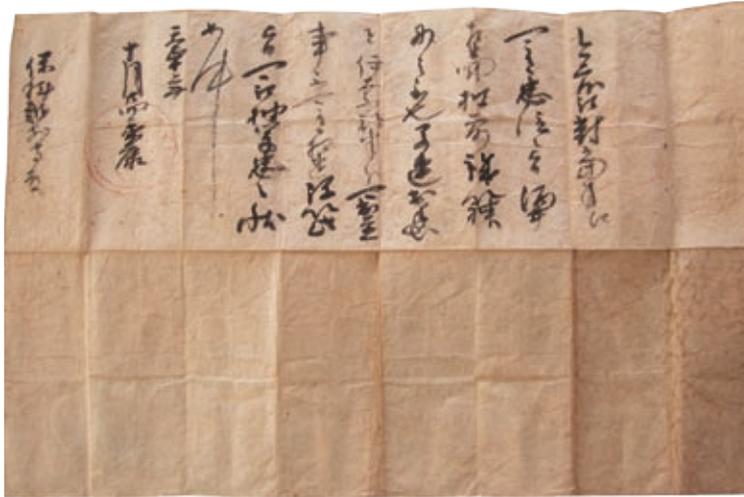


秋の企画展

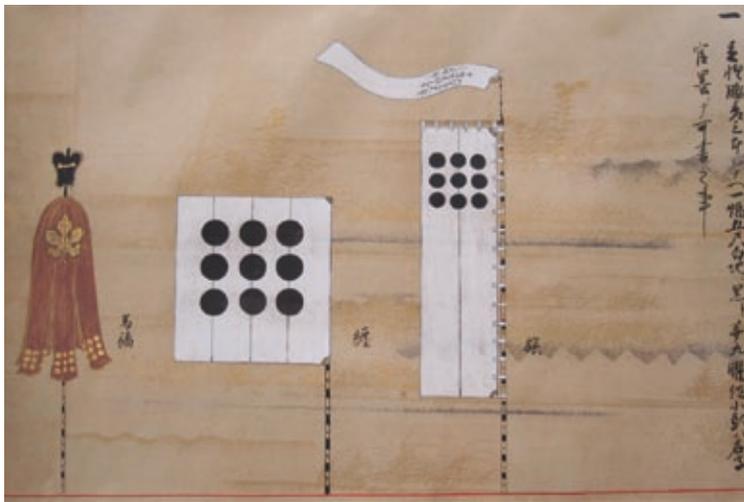
生誕四〇〇年記念 保科正之の時代

二〇二一年一〇月八日(土)～二月二七日(日)

*会期中に一部展示替えを行います



徳川家康朱印状 保科正直宛 (個人蔵)



保科氏系図 (個人蔵)

慶長一六年(一六一一)、二代將軍徳川秀忠と神尾志津との間に誕生した保科正之。出生時、父秀忠と正室江与の間に、すでに多くの子どもがいました。正之は正式に秀忠の子と認められず、武田信玄の娘・見性院に養われます。七歳で武田家ゆかりの保科正光の養子となり、二一歳の時には正光の遺領・高遠三万石を相続し、保科家が徳川家康から拝領した感状や太刀など、保科家相伝の品も受け継ぎます。そしてこの翌年、実父秀忠が逝去すると、実兄の三代將軍家光により徐々に取り立てられ、山形二〇万石、さらには会津二三万石へと加増転封を重ねました。

この過程で家光は、保科家相伝の品を、正之の義理の叔父にあたる保科正貞(上総国飯野藩祖)に渡すよう命じます。家光は、正之を將軍家の血筋に連ね、「保科」の家名は保科正貞に任せようとしたものと考えられます。正之は相伝の品を正貞に譲り渡しましたが、保科家への恩義を感じ、「保科」の名は捨てませんでした。以後、保科両家は親戚として付き合い、飯野藩保科家は、相伝の品を永く大切に守り伝えました。

正之四一歳の時、家光は臨終の床で、嗣子家綱の後見を託します。正之はその後隠居するまで会津に帰らず、甥にあたる幼將軍家綱を守り立て、日々登城して文治政治を推し進めました。この間、国元では優秀な家臣たちが、正之の指示により藩領の整備に尽力しました。

今年には正之生誕四〇〇年の節目です。これを機に、「大老」や「半天下」と呼ばれ、存在感を放った正之の一生を見つめます。特に、親交の深かった大名家に残された諸資料から、正之と正之が活躍した時代にせまります。また正之が保科正貞に移譲した保科家相伝の品は、今回出品がかない、まとめてご覧頂ける初めての機会となりました。どうぞご来場ください。

■展示構成

- プロローグ 数奇な運命
- 第一章 奥州の咽喉・会津へ
- 第二章 臣下の立場で―幼將軍の後見―
- 第三章 二つの保科家



鶏図 徳川家綱筆（徳川記念財団蔵）



短刀 朱銘 延壽（個人蔵）



保科正之書状 本多政長宛（藩老本多蔵品館蔵）

■ 関連行事

(1) 記念講演会1

「保科正之とその同志たち〜江戸儒学の黎明期〜」

日時：一〇月一六日(日) 一三時三〇分〜一五時〇〇分

場所：福島県立博物館講堂

講師：小島 毅氏(東京大学人文社会系研究科准教授)

(2) 記念講演会2

「保科正之はなぜ神に祀られたか」

日時：一〇月二七日(日) 一三時三〇分〜一五時〇〇分

場所：福島県立博物館講堂

講師：真壁俊信氏(歴史学博士)

(3) シンポジウム

「保科正之とその時代〜ゆかりの大名家からさぐる〜」

日時：一〇月六日(日) 一三時三〇分〜一六時二〇分

場所：福島県立博物館講堂

講師：菊池紳一氏(財団法人前田育徳会理事・善経閣文庫主幹)

角屋由美子氏(米沢市上杉博物館学芸主査)

野田浩子氏(彦根城博物館学芸史料課史料係長)

(4) 会津慶長地震シンポジウム

日時：一〇月一九日(土) 一三時三〇分〜一六時三〇分

場所：福島県立博物館講堂・エントランスホール

講師：鈴木尉元氏(元通産省地質調査所地質情報センター長)

堀 健彦氏(新潟大学文学部准教授)

(5) 保科正之展リレー解説会(鶴ヶ城天守閣と合同企画)

日時：①一〇月九日(日) 一三時三〇分〜一五時三〇分

②一〇月二二日(土) 一三時三〇分〜一五時三〇分

場所：当館及び鶴ヶ城天守閣の各展示会場(当館集合)

講師：両館学芸員



芸術文化振興基金助成事業

イベント紹介

会津・漆の芸術祭二〇二一

～東北へのエール～

会期：一〇月一日(土)～一二月三日(水・祝)

会場：会津若松市内／喜多方市内

東北・関東を襲った巨大地震は、筆舌に尽くしがたい損害を数多くの人々に与えました。福島県は巨大地震・津波に加えての原子力発電所事故というこれまでに誰も経験したことのない未曾有の困難に直面しています。

未来への架け橋でもあり、人々が日々を生きていく上での心の糧ともなる文化は、このような時にこそしっかり立ち上がらなければなりません。

東日本大震災を踏まえ、第二回となる「会津・漆の芸術祭二〇二一」は「東北へのエール」をサブテーマに掲げました。「東北へのエール」の想い、そして失われた多くの命に捧げる鎮魂と再生の願いが込められた作品やイベントによって、復興への道筋を文化の力で照らし出したいと願っています。



アンティエ・グメルス 333 PRAYERS・333の祈り

会津・漆の芸術祭

に参加する作家さんは約一〇〇組。会津地域で活躍する漆の職人や作家、福島県内外の作家たちです。みなさんがそれぞれに「東北へのエール」を作品にこめて出品します。一部をご紹介します。

ドイツ人で新潟

市在住のアーティスト、アンティエ・グメルスさんは、東日本大震災発生後、福島を祈りつつ描きつづけた絵画作品を出品します。数センチ角の小さな絵が三三三点。一点一点にアンティエさんの祈りが込められています。作品タイトルは「333 PRAYERS・333の祈り」。展示会場は喜多方市の小原酒蔵さんです。

アーティスト、小沢剛さんは、何気ない暮らしの中の品々に大事な人の記憶を探る作品を展示。残された物をなぞり、描く行為によって大事な人を確認します。作品タイトルは「できるかな二〇二〇」。伝統工芸士の本田充さんの協力により、なぞり、描く行為に漆の力も借ります。展示会場は会津若松市の井上一夫商店さんです。

絵描きのはとさんは、起き上がり小法師のように東北も起き上がって欲しいとの願いをこめて、全国各地で一般の参加者と漆塗りの起き上がり小法師を制作。六月の会津



小沢剛 できるかな2010 *画像協力 府中市美術館



はと 起き上がる！東北こぼしさん
～小さな桃源郷・うるしのこぼし村～



佐藤達夫 露草蒔絵色紙箱『輪』

若松開催をスタートに、広島、大阪、東京、青森、名古屋。それぞれの地域で生まれ、東北への応援のメッセージを託されたこぼしが会津に届きます。作品名は「起き上がる！東北こぼしさん～小さな桃源郷・うるしのこぼし村」。展示会場は会津若松市のberese蔵舗さんです。

会津で活躍する漆芸家、漆の職人さんたちも多数参加してください。喜多方市在住の漆芸家・佐藤達夫さんは「露草蒔絵色紙箱『輪』」を出品。露草が描く輪は、人の輪の貴さを想起させます。そして露草の姿に見る自然の美しさと豊かさは、災害だけでなく私たちに多くの実りをもたらす自然と人との関わりにも思いを至らせます。展示会場は会津若松市内のジュエリーオオスカさんです。

会期中には多数のイベントや、後援事業、協賛事業も行われます。一人でも多くの方と、東北へのエールやメッセージを共有し、これからの道しるべを探ることができればと願っています。(担当：小林めぐみ)

Q…猪苗代町にある土津神社は、保科正之が神として祀られた神社だそうです、少し詳しく説明してください。

A…保科正之は、その生い立ちからして諸大名の中で卓越した人物でした。会津藩主として藩政を主導し、また、將軍後見人として、幕府の政治体制の重責を担い、為政者の進むべき道を追求しました。幕府の政治や藩政の運営に際し、文治的な体制を組織化していったのです。

正之の政治姿勢は、学問と密接に連動していました。朱子学をさらに深めるために寛文四年に京都から山崎闇斎を招聘し、研鑽を深めました。一

した。後に吉田家の後見人として、吉田神道の道統を守るために神道伝授に意を砕きました。

兼従の晩年に吉川惟足が入門しました。兼従は、惟足の神道研究に専心する誠実さを信頼し、惟足に吉田神道の教学面の秘伝道統を伝授しました。これは、吉田家の継承者が若年のために道統を継承することができなかつたために、道統断絶を危惧した兼従が、将来の返伝授を念頭において、一時的に惟足に伝授したのでした。結果としては、返伝授は完全に達成できませんでした。

次に清原兼従から神道を伝授された吉川惟足（一六一六―一六九四）について、少し詳しく説明い

「保科正之・吉川惟足・吉田兼従」

方で、寛文元年には吉川惟足を招いて神道の講義を聴聞しました。寛文十一年には神道の道統の伝授を受け、霊社号を与えられました。そして、没後に神として土津神社に祀られました。

Q…保科正之が神道を学んだ吉川惟足とは、どのような人ですか。

A…まず、吉川惟足の先生である吉田兼従を紹介します。吉田兼従（一五九〇―一六六〇）は、京都の神祇管領長上吉田兼治の長子でしたが、祖父兼見の養子になり萩原を称しました。兼従は、豊臣秀吉を祀る豊国社の社務職となり、将来の萩原家の発展が期待されましたが、豊臣氏滅亡によって零落しま

たします。上京して萩原兼従に師事した吉川惟足は、明暦二年（一六五六）に兼従の秘伝をことごとく伝授されました。その後、保科正之は、惟足に講義を受けて神道を学び、また、儒者の服部安休に惟足の神道論を学ばせて伝達させて学問を深めました。

惟足は、寛文十一年一月一七日に保科正之に、一事、二事、三事の伝授を経ないで、直接、最高の秘伝



である四重奥秘すなわち神籬磐境伝を授与して、土津霊神の霊社号を授与しました。

吉田家に連綿と継承された吉田神道は、吉田（萩原）兼従（神海霊神）から吉川惟足（視吾霊神）に伝授され、吉川惟足から保科正之（土津霊神）に伝授されることとなりました。

参考資料として写真展示した「萩原兼従画像」は、土津神社に所蔵されているものです。この画像は、狩野探幽の描いた作品で、箱書きが吉川惟足の手になるものです。

Q…企画展「生誕四〇〇年記念 保科正之の時代」の展示資料で、吉川惟足の関係資料にはどのようなものがありますか。

A…「視吾霊神行状」は、吉川惟足の伝記の一つです。冒頭に「視吾霊社神像」として、肖像画と讃が書かれており、左隅に「隱孝謹贊」と書かれています。年号の早い跋文は、明和九年（一七七二）九月に「東奥州会津山郡隠士中野理八郎平義都謹跋」とあります。次の序文と跋文は、安永三年（一七七四）一月に「伊波三（美） 天津彦 源重平」が書いています。

なお、展示解説図録の特別寄稿論文として歴史学博士真壁俊信氏が「保科正之はなぜ神に祀られたか」を執筆しています。神に祀られるということとはどういうことか、なぜ、土津神社は、磐梯山麓に祀られたのかなど、興味深い内容が、わかりやすく書かれています。



保科正之が後を頼んだ人物は誰か

阿部 綾子 歴史担当

会津藩主・保科正之が、実兄の三代將軍徳川家光の信頼をうけ、四代家綱の後見をつとめたことは、ご存じの方も多いでしょう。父家光の死をうけて將軍となった時、家綱はわずか一歳でした。さらに、將軍の代替わりにおいて父が不在であったのは、徳川將軍家始まって以来の事だったので、二代秀忠も三代家光も、將軍となつてからしばらくの間、その父が大御所として君臨していました。つまり、將軍家綱の治世のすべりだしには、大御所にかわる強力なバックアップが必要とされました。家光によりその役目選ばれたのが正之ですから、正之がいかに信頼を得ていたのが分かります。

こうして家綱の治世において勢いのあつた正之ですが、正之を頼みとしたのは將軍家だけではありませんでした。例えば、加賀の前田家も、正之に熱い期待をよせています。四代藩主光高の急死により、嗣子犬千代（綱紀、はじめ綱利）が襲封したのは四歳の時でした。綱紀は、隠居していた祖父利常の後見をしばらくうけることとなります。しかし利常は、後のことを考えて正之の娘を綱紀の正室とすることを幕府に申し入れ、その願いは実現して、万治元年（一六五八）に正之の娘・松姫が綱紀に嫁しました。

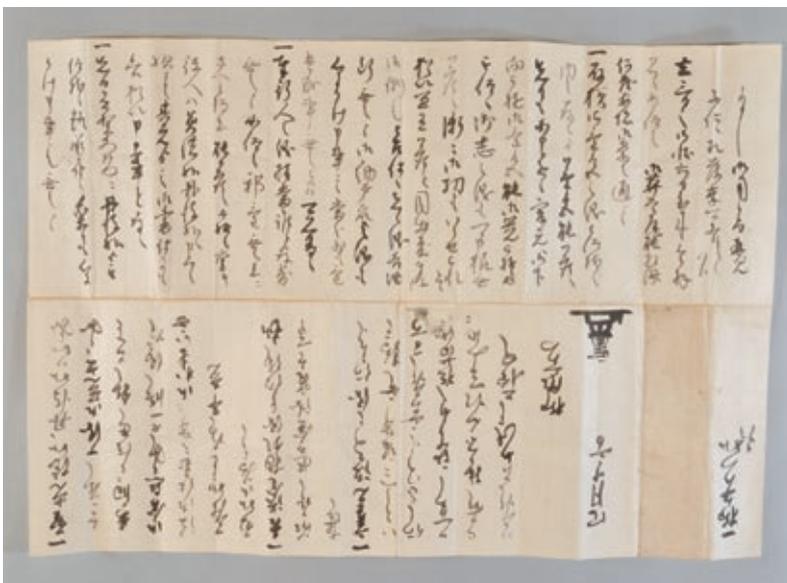
松姫は、この時他家へ嫁ぐ計画が進められていましたが、利常の強い願いにより、前田家へ嫁ぎました。婚儀が済むと、利常はその年のうちに亡くなり、利常のねらい通り、正之は以後の加賀藩政を後見しました。また米沢の上杉家も、正之の娘・媛姫を正室に迎えています。嗣子のないまま藩主綱勝が急逝した際、その存続を強力にバックアップしたのが正之でした。

では、正之自身が頼みとした人物は誰だったのでしょか。結論からいうと、死期に臨んで諸々を頼んだのは、女婿稲葉正往（はじめ義雅、正通。丹後守）であつたことが、『家世実紀』などいくつかの史料から分かります。正往の父・稲葉正則（美濃守）は春日局の孫で、家綱の治世に老中として重用されました。このため、正之の死後、会津藩の重臣達は、藩の重大事に稲葉正則・正往父子の指示を仰いでいます。

こうした状況を具体的に伝える書状が、今に伝わっています。書状は会津藩家老の柳瀬三左衛門から、同じく家老の一柳平左衛門にあてたもので、正之の葬儀が済んだ直後の、延宝元年（一六七三）四月一三日に書かれたものです。この書状から、一柳平左衛門が、藩の奉行人など重役決定の際には「美濃様・丹後様」父子に相談したほうが良いと考えていたことや、「聖光院様」（正之の継室、万）を「丹後様」が訪問して何やら意見したことが分かります。この訪問による効果で、「弥御仕置之事二御かまい無御座様ニと存候、畢竟 殿様御為よく候」、すなわち、今後聖光院様が藩の政治に口を出さないだろ

う、結局それが殿様（二代藩主正経）のためにもよい、と書かれており、当時の内部事情が伺い知れて、興味深い書状です。と同時に、稲葉正往が会津藩の政治向きにかなり踏み込んだ立場にいたことが推察されます。

なお、この書状は当館秋の企画展「生誕四〇〇年記念 保科正之の時代」でも公開します。正之の生きた時代、藩政を円滑にすすめる上で、大名間相互のバックアップがいかに重要であつたのかを感じて頂ければ、と思います。



柳瀬三左衛門書状 一柳平左衛門宛

テーマ展

山内清司漆芸展

— 自然と語り合う —

会 期：10月8日(土)～12月4日(日)

会 場：常設展部門展示室 歴史美術

観覧料：大人・大学生260円（常設展料金でご覧になれます）、小中高校生無料

日本を代表する漆芸家・六角紫水に学んだ後、会津で制作活動と後進の指導にあたった漆芸家・山内清司。自然に向き合って生まれた表現力と息を飲むような精緻な技法の数々をご紹介します。



秋草蒔絵棗



蟋蟀蒔絵香合

冬の企画展 予告

小さなもの集まれ！

— 雑道具から古民家模型まで —

ミニチュアの展覧会です。中心となるコレクションは二つ。ひとつは極小の美、雑道具です。江戸の七澤屋という精巧で見事な道具を方寸の内に作り出し、その出来栄を称賛された店のものもあります。もうひとつは古民家模型六十数戸（作者はいわき市在住）。余暇に作るアマチュアだということですが、その凝りようは尋常ではなく、寸法の正確さはもちろん、現状を写し取ったかのように生活痕も再現し、学術模型にはない住む人の息遣いまでも伝えるような素晴らしさです。このほかに、明治以降の裁縫教育



極小の美 雑道具

の場で作成された裁縫雛型、船の模型などいずれも小さくても驚きと愛らしさを私たちに与えてくれそうです。時間をかけてじっくりとおい。楽しみください。

■会期：平成二十四年二月一日(土)～五月二三日(日)

企画展

秋の企画展

「生涯400年記念 保科正之の時代」

会期 10月8日(土)～11月27日(日)

◎秋の企画展関連行事

展示解説会「保科正之展リレー解説会」

日時 10月9日(日) 13時30分～14時30分・15時～15時30分

会場 福島県立博物館企画展示室・若松城天守閣郷土博物館

講師 学芸員 阿部綾子

若松城天守閣郷土博物館学芸員 中岡 進さん

記念講演会1「保科正之とその同志たち」

日時 10月16日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 東京大学人文社会科学系研究科准教授 小島 毅さん

展示解説会「保科正之展リレー解説会」

日時 10月22日(土) 13時30分～14時30分・15時～15時30分

会場 福島県立博物館企画展示室・若松城天守閣郷土博物館

講師 学芸員 阿部綾子

若松城天守閣郷土博物館学芸員 中岡 進さん

シンポジウム「保科正之の時代」

日時 11月6日(土) 13時30分～16時20分

会場 福島県立博物館講堂

講師 財団法人前田育徳会 菊池紳一さん

米沢市上杉博物館 角屋由美子さん

彦根城博物館 野田浩子さん

企画展シンポジウム「会津慶長地震シンポジウム」

日時 11月19日(土) 13時30分～16時30分

場所 福島県立博物館講堂・エントランスホール

講師 元通産省地質調査所 鈴木財元さん

新潟大学文学部 堀 健彦さん

記念講演会2「保科正之はなぜ神に祀られたか」

日時 11月27日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 歴史学博士 真壁俊信さん

会津・漆の芸術祭

会期 10月1日(土)～11月23日(水・祝)

テーマ展

※常設展料金までご覧になれます

「ふるさとの考古資料2」 「会津美里町」 遺跡探訪」

会期 6月4日(土)～平成24年5月13日(日)

「山内清司漆芸展―自然と語らう―」

会期 10月8日(土)～12月4日(日)

「ふくしまの大地をつくる石たち」

会期 12月10日(土)～平成24年1月29日(日)

「吉祥 めてたいものたち」

会期 12月10日(土)～平成24年1月22日(日)

ポイント展

※常設展料金までご覧になれます

「はじまりの考古学 注口土器のはじまり」

会期 8月30日(火)～平成24年3月18日(日)

「はじまりの考古学 米作りと石の道具」

会期 8月30日(火)～平成24年3月18日(日)

「はじまりの考古学 塩つくりのはじまり」

会期 10月18日(火)～平成24年3月18日(日)

「ふくしまの教育資料」

会期 10月22日(土)～11月25日(金)

「くらしの石」 稻荷原石で作った火の道具」

会期 12月1日(木)～平成24年2月3日(金)

「はじまりの考古学 埋められたお経 会津の経塚」

会期 12月20日(火)～平成24年3月18日(日)

「旧石器時代の斧」

会期 12月20日(火)～平成24年3月18日(日)

ミュージアムイベント

クリスマスコンサート「ライブでたどるジャズの歴史」

日時 12月17日(土) 13時30分

会場 福島県立博物館エントランスホール

出演 ジャズバンド「ハートランド」

木曜の広場

「遠野物語」を読む19

日時 10月20日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む20

日時 11月17日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む21

日時 12月15日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

◎民俗学講座

企画展図録で学ぶ民俗学4「村芝居の世界」

日時 10月8日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館視聴覚室

講師 学芸員 内山大介

企画展図録で学ぶ民俗学5「染める」

日時 11月12日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館視聴覚室

講師 学芸員 佐々木長生

◎考古学講座

はじまりの考古学2「注口土器のはじまり」

日時 10月15日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 森 幸彦

はじまりの考古学3「米作りと石の道具」

日時 11月26日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 田中 敏

はじまりの考古学4「塩つくりのはじまり」

日時 12月10日(土) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 高橋 満

◎自然史講座

「鶴ヶ城の野鳥」

日時 11月13日(日) 13時30分～15時30分

会場 視聴覚室・鶴ヶ城公園

講師 野鳥研究者 古川裕司さん

実演

「からむし織」

日時 10月16日(日) 13時30分～14時30分

会場 福島県立博物館体験学習室

講師 伝統技術保持者 酒井モト子さん

「檜枝岐の曲物作り」

日時 11月6日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館体験学習室

講師 伝統技術保持者 星 長一さん

共催事業

会津史学会歴史文化講演会「相津国」誕生の由来

日時 10月23日(日) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 県考古学会顧問 鈴木 啓さん

会津史談会公開文化史講座「近世期の会津」

日時 11月10日(木) 13時30分～15時

会場 福島県立博物館講堂

講師 学芸員 阿部綾子

やさしい展示解説

*展示解説員による常設展総合展示の案内です。

*毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

す。

常設展無料開放日

*要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。

*その他、行事等の詳細に関しましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

11月3日(木)文化の日 どなたさまも常設展無料です。

企画展無料開放日

11月1日(火)～11月6日(日) 小学生・中学生・高校生は企画展無料です。

10月～12月の休館日

10月 3日(月)・11日(火)・17日(月)・24日(月)・31日(月)

11月 7日(月)・14日(月)・21日(月)・24日(木)・28日(月)

12月 5日(月)・12日(月)・19日(月)・26日(月)・28日(水)～31日(土)